

全国高等医药院校试用教材

(供口腔专业用)

# 医用日语阅读教材

5

白求恩医科大学 主编

69R  
E  
237

人民卫生出版社

全国高等医药院校试用教材

(供口腔专业用)

# 医用日语阅读教材

## 5

主 编 单 位

白求恩医科大学

编 写 单 位

|        |         |
|--------|---------|
| 辽宁中医学院 | 白求恩医科大学 |
| 河北医学院  | 哈尔滨医科大学 |

人 民 卫 生 出 版 社

**医用日语阅读教材**

**5**

**白求恩医科大学 主编**

**人民卫生出版社出版**  
(北京市崇文区天坛西里10号)

**长春新华印刷厂印刷**  
**新华书店北京发行所发行**

**787×1092毫米16开本 6.5印张 133千字**  
**1980年12月第1版第1次印刷**  
**印数: 1—9, 150**

**统一书号: 14048·3823 定价: 0.58元**

## 编写说明

本教材是根据卫生部1977年第770号文件《关于编写高等医药院校新教材的通知》提出的要求和同年11月在武汉召开的《全国高等医药院校教材主编单位座谈会》制订的五年制教学计划而编写的。全书共分七册（基础教材一册，供各专业通用，200学时；阅读教材六册，分别供各不同专业选用，100学时）：

医用日语基础教材（供医学、中医、儿科、口腔、卫生、中药、药学专业用）

医用日语阅读教材（供医学专业用）

医用日语阅读教材（供中医专业用）

医用日语阅读教材（供儿科专业用）

医用日语阅读教材（供口腔专业用）

医用日语阅读教材（供卫生专业用）

医用日语阅读教材（供药学专业用）

本册为医用日语阅读教材，供口腔专业用100学时，共50课，每课2学时。

根据卫生部的上述《通知》，本教材编写组由白求恩医科大学（主编单位）、辽宁中医学院、河北医学院、哈尔滨医科大学等四个单位组成。本书系试用教材。本册由白求恩医科大学吴宜刚编写，栾开翔校阅。本册在选材方面得到四川医学院王翰章教授的积极帮助，在口腔学专业内容方面得到白求恩医科大学口腔学系聂俊秀副教授的热情指导，在此表示深切的谢意。由于我们水平不高，经验不足，时间仓促，教材中会有不少缺点和错误，请各院校在使用中不断总结经验，提出宝贵意见，以便进一步修订。

全国高等医药院校日语教材编写组

1980年2月

## 目 录

|      |                    |    |
|------|--------------------|----|
| 第1课  | 歯とは何か?             | 1  |
| 第2课  | 歯の機能               | 3  |
| 第3课  | 口腔疾患の一般病理          | 6  |
| 第4课  | 齲歯の予防              | 8  |
| 第5课  | 齲蝕(一)              | 10 |
| 第6课  | 齲蝕(二)              | 11 |
| 第7课  | 齲蝕(三)              | 13 |
| 第8课  | 齲蝕(四)              | 16 |
| 第9课  | 病歴                 | 18 |
| 第10课 | 頭頸部腫瘍治療の動向(一)      | 20 |
| 第11课 | 頭頸部腫瘍治療の動向(二)      | 22 |
| 第12课 | 歯科矯正学とは何か          | 24 |
| 第13课 | 臨床家の心がまえ           | 26 |
| 第14课 | 人工歯の選択             | 28 |
| 第15课 | 炎症についての序説, 定義それに原因 | 30 |
| 第16课 | 組織の再生と修復(一)        | 32 |
| 第17课 | 組織の再生と修復(二)        | 34 |
| 第18课 | 小児齲蝕症の特異な二つの型      | 36 |
| 第19课 | 口腔感染の好発部位と一般転帰(一)  | 38 |
| 第20课 | 口腔感染の好発部位と一般転帰(二)  | 40 |
| 第21课 | 歯科学と歯科医療           | 42 |
| 第22课 | 凍結外科(Cryosurgery)  | 45 |
| 第23课 | 東洋医学的診断法と漢方薬       | 47 |
| 第24课 | 「歯科医学と免疫学」を聞いて(一)  | 50 |
| 第25课 | 「歯科医学と免疫学」を聞いて(二)  | 52 |
| 第26课 | 「歯科医学と免疫学」を聞いて(三)  | 54 |
| 第27课 | 「歯科医学と免疫学」を聞いて(四)  | 56 |
| 第28课 | 「歯根尖切除術」を聞いて(一)    | 58 |

|      |                 |     |
|------|-----------------|-----|
| 第29課 | 「歯根尖切除術」を聞いて（二） | 60  |
| 第30課 | 歯科医学史の散歩道       | 62  |
| 第31課 | 発音機能における前歯の役割   | 65  |
| 第32課 | 口腔外科学の教育目的（一）   | 67  |
| 第33課 | 口腔外科学の教育目的（二）   | 69  |
| 第34課 | 口腔癌について（一）      | 71  |
| 第35課 | 口腔癌について（二）      | 73  |
| 第36課 | 前癌状態・初期癌について（一） | 75  |
| 第37課 | 前癌状態・初期癌について（二） | 77  |
| 第38課 | 前癌状態・初期癌について（三） | 79  |
| 第39課 | 前癌状態・初期癌について（四） | 80  |
| 第40課 | 前癌状態・初期癌について（五） | 82  |
| 第41課 | 前癌状態・初期癌について（六） | 84  |
| 第42課 | 前癌状態・初期癌について（七） | 87  |
| 第43課 | 口腔がんの診断（一）      | 89  |
| 第44課 | 口腔がんの診断（二）      | 90  |
| 第45課 | 口腔がんの診断（三）      | 92  |
| 第46課 | 口腔がんの診断（四）      | 94  |
| 第47課 | 口腔がんの診断（五）      | 95  |
| 第48課 | 口腔癌の手術的療法       | 97  |
| 第49課 | 癌の免疫療法（一）       | 99  |
| 第50課 | 癌の免疫療法（二）       | 101 |

## 第 1 課

### 歯とは何か?

歯は鳥類を除いた①脊椎動物のすべての綱目に見出される②器官である。しかし改めて「歯とは何か」と問われると③、その答は必ずしも④容易ではない。もっとも人や高等の哺乳動物で歯の定義を下すことはそれほど困難ではないが、動物が下等になるにしたがって⑤、歯というものの性質が他の類似の器官すなわち楯鱗や毛髪に近づいてくるから、歯とこれらの形象との間の境界をはっきり定めることがむずかしくなるのである⑥。

楯鱗というのは⑦板鰓類すなわちサメやエイの体表に密生している一種の鱗で、これは形こそ小さいが、立派にエナメル質も象牙質もそなえており、しかもその発生様式は全く歯と同じである。楯鱗と歯とのこのような近親関係は Hertwig 氏(1874)によってはじめて注意せられたところで⑧、氏はこの観察にもとづいて、脊椎動物の歯は板鰓類の楯鱗から由来したものであるとの説をたて、この説は今日では歯の系統発生学の基礎とまでなっているのである⑨。

毛や爪のような角質器もその構造や発生の点では歯によく似ている。すなわち、角質部は上皮性のものであって、エナメル質に相当し、毛乳頭や爪床の真皮部は歯乳頭すなわち完成歯の歯髄に相当するものである。ただ異なるところは爪や毛では、上皮性の部分が角化しているのに反し、歯では上皮細胞から分泌せられたエナメル質がこれに代ると共に⑩、歯乳頭によって作られた象牙質という特殊の硬組織の存する点である⑪。

こんなわけで⑫、脊椎動物の全般に通用する歯の定義を下すことはかなり困難な問題であるが、話を哺乳類のみに限るならば、問題は比較的容易である。すなわち「顎骨に植立している硬組織性の器官で、食餌の摂取に関与するものである。硬組織は普通エナメル質・象牙質・セメント質の3種から成り、内部の空洞に歯髄という結合組織性の栄養器官を蔵している」とでもいえば⑬、これで歯と他の器官とは明らかに区別せられるのである。

しかし仔細に観察すると、哺乳類の中だけでも、その種類によって可成り著しい差異がある。それで本書では混雑をさけるため特に必要な場合を除いては専ら人間

の歯のみを取扱うことにしたい⑭。したがって、特に断ってない限り⑮、単に歯といえはいつでも「人間の歯」の意味であると承知せられたい⑯。

## 注 釋

①〔除いた〕 是「のぞく」的过去时连体形，作「脊椎動物」的定语：除…之外的。例如：鳥類を除いた脊椎動物／除鸟类之外的脊椎动物。

②〔見出される〕 是「みいだす」被动态连体形，作「器官」的定语：被发现的，被找出的，被看到的。例如：見出される器官／被看到的器官。

③〔と問われると〕 这个词组里面有两个「と」。前面的「と」是格助词，表示被问的内容，其作用相当于英语连接宾语从句的连接词that，因此不必译出；后面的「と」是接续助词，接在动词终止形的后面，连接前后两个事项，以前项为后项的假定条件，顺态地连接后项，译成：若是，如果。「問われる」是「とう」的被动态。例如：「歯とは何か」と問われると／如果问“牙是什么”的话。

④〔必ずしも〕 是副词，它的后面总是接否定语，即「必ずしも…ない」，译成：未必，不一定。例如：その答は必ずしも容易ではない／其回答未必容易。

⑤〔にしたがって〕 接在体言或用言连体形的后面，译成：随着…。例如：動物が下等になるにしたがって／随着动物趋于低等→越是低等动物…越…。

⑥〔のである〕 是惯用型，接在连体形后面，以加强语气。可酌情译成：就，是…。例如：むずかしくなるのである／就变得困难多了。

⑦〔というのは〕 常常简写成「とは」，并以「体言＋というのは（とは）…である」的形式出现，多用于下定义或交代概念。一般译成：所谓…就是…。例如：楯鱗というのは板鰓類すなわちサメやエイの体表に密生している一種の鱗である／所谓楯鱗，就是在板鰓类即鲨鱼和魟鱼的体表密生着的一种鳞。

⑧〔ところで〕 是「ところだ」的中顿形式，「ところ」是形式体言，表示一种事实，不必译出。例如：楯鱗と歯とのこのような近親関係はHertwig氏(1874)によってはじめて注意せられたところで／楯鱗和牙这样的近亲关系是第一次被Hertwig氏注意到了的→Hertwig氏(1874)首先注意到楯鱗和牙之间的这种近亲关系。

⑨〔基礎とまでなっているのである〕 「まで」是副助词，表示事物的程度，译成：直到…的程度，甚至，简直。「のである」是惯用型，加强语气。「基礎となっている」，译成：成了基础。例如：この説は今日では歯の系統発生学の基礎とまでなっているのである／这种学说，在今天甚至成了牙的系统发生学的基础。

⑩〔これに代ると共に〕 「これ」代替「角化」；「これに代る」译成：代替角化→不角化；「と共に」译成：与…同时。「これに代ると共に」译成：代替角化的同时

→不発角化，同時…。

⑪〔硬組織の存する点である〕「点である」は謂語，其主語は句首的「ただ異なるところは」，「ただ異なるところは…点である」译成：但是不同之处是…。「硬組織の存する」は「点」的定语，译成：存在硬組織之点。

⑫〔こんなわけで〕该词组是由「こんな」，「わけ」和「で」三个词构成的，起承上启下的作用。译成：因为这样的理由→因此，这样一来。

⑬〔とでもいえば〕「と」是格助词，表示「いえば」的内容。「でも」是提示助词，举例表示说话的大致内容，可酌情译成：譬如，之类。「いえば」是五段动词「いう」的假定形「いえ」+ば，译成：如果能够说的话。词组「…とでもいえば」译成：譬如可以这样说的话。

⑭〔ことにしたい〕「たい」是希望助动词，译成：想要。「たい」只能接在连用形的后面，所以「ことにする」变成了「ことにし」。「ことにする」是惯用型，通常接在动词连体形的后面，译成：决定。例如：人間の歯のみを取扱うことにしたい／決定 想要只处理人牙→想只叙述有关人牙的问题。

⑮〔断ってない限り〕等于「断っていない限り」，译成：除非事先说明。惯用型：动词未然形+ない限り／除非，只要不。

⑯〔と承知せられたい〕译成：希望被知道→希望了解。「と」是格助词，表示「承知せられたい」的内容，「と」本身不译出；「承知せられる」等于「承知される」，是「承知する」的被动态，之所以用「承知せられ」是希望助动词「たい」要求的连用形。

## 第 2 課

### は き の う 歯 の 機 能

は もつと しゅよう やくわり しよくもつ はつしゅ ひとくち  
歯の最も主要な役割が食物の摂取にある①ことはいうまでもない②。一口に  
しよくもつ せつしゅ ぶんせき かんが  
食物の摂取というがこれをもう少し分析して考えてみる③と，1)捕えること，2)咬  
み切る こと，3) 咬み砕く こと，4) 磨りつぶす ことの4種の動作になると思う。「捕  
える」とは食餌を上下の顎の間にはさんではなさないことで，この動作は爬虫類  
以下の下等脊椎動物の歯のいとなむ主な役目④である。しかし，哺乳類でも多くの肉  
食動物では歯にこの作用があり，人でも上下の歯の間に食物を把持することは，  
われわれのしばしば経験するところである⑤。「咬みきり」は専ら哺乳類に見られる

歯の作用で、概ね前歯部で行われる。草食獣のノミのような形をした前歯は特に切断の目的にかなっているわけで、人の前歯もやはり主としてこの目的に使われる。切断に似たものに「削り取り」があり、齧歯類の切歯は専らこの役目をいとなむものであるが、その他の哺乳類にはこのような働きをする歯はあまり見当たらない。最後の二つ「咬み砕き」と「磨りつぶし」もまた共に哺乳類に特有な歯の作用であって、下等動物では歯は単に食餌を捕える役割のみを演じているにすぎない⑥。「咬み砕く」とは比較的硬い物を上下の歯の間において⑦顎を上下に閉じることによって⑧食物を細く砕くことで、肉食類が骨を粉碎するのはその適例である。これに反して、「磨りつぶす」とは顎の水平運動によって食物を細かくすることで、その状態はひき臼の作用と同じである。この臼磨り運動に際して、有蹄類は主として顎を左右に動かし、齧歯類は概ね前後に動かすことは注意すべきで、人や猿のような雑食性の動物はその両者を営み得るようになっている。「咬み砕き」や「磨りつぶし」は専ら臼歯部で行われるものであるが、「咬み砕き」しかやらない肉食類では臼歯が錐状の鋭い結節を具えており、これに反して「磨りつぶし」のみを専門とする草食類の臼歯は咬合面が平坦でしかもエナメル質の隆線を具えているから、ひき臼と全く同じ機構にできている⑨。この点でも人や猿の歯は両者の中間型をとっているから、その機能も双方にまたがっているのである⑩。

このような食物摂取という主役のほか、歯にはなお色々の二次的な或は転化した役目がある。肉食類やイノシシの犬歯、象のキバなどが闘争の武器乃至は土を掘り起したり木の根を除いたりする⑪道具であることは周知のことであり、齧歯類の切歯が食物摂取ばかりでなく、巣を作ったり通路を築いたりする⑫用に使われることも興味あるところである。人でも歯を種々の用に使っているが、なかんづく発音器官として重要な役割を演じていることを忘れてはならない⑬。いわゆる歯音(T, D, Th, F, Vなど)が前歯の脱落した場合に如何に障害を受けるかを見れば、歯と発音との関係の深さを知ることができるであろう⑭。

## 注 釋

①〔にある〕 慣用型：体言・动词连体形＋にある／在于。例如：食物の摂取にある／在于食物的摄取。こうした治療方法を採用したのは治療効果を向上させるにある／（之所以）采用这种治疗方法在于提高其治疗效果。

②〔いうまでもない〕 慣用型：体言＋は＋いうまでもない／不用说，不言而喻，当然。例如：これはいうまでもないことである／这是当然的事情。ハリ麻酔はいい麻酔方法であることはいうまでもない／不言而喻，针麻是一种好的麻醉方法。

③〔てみる〕 惯用型：动词连用形＋てみる／（表示该动作具有试验性）试试看。  
例如：読んでみる／读读看。考えてみる／想想看。

④〔主な役目〕 词义相当于本课文第一句的「主要な役割」，译为：主要的任务，主要的功能，主要的作用。

⑤〔ところである〕「ところ」是形式体言，「ところである」与「ことである」相同，起加强语气的作用。酌情译成“是…的”或不译出。例如：……われわれのしばしば経験するところである／…是我们经常体验到的。

⑥〔にすぎない〕 惯用型：用言连体形・体言＋にすぎない／不过，只不过。例如：特記すべきことを特記したにすぎない／只不过特殊记载了应该特殊记载的事情。患者は五名にすぎない／患者只有五名。

⑦〔において〕 惯用型：体言＋において／在。强调时加「は」→においては，兼提时加「も」→においても；作定语时加「の」→においての；限定时加「のみ」→においてのみ。例如：ハリ麻酔においては…／在针麻方面…。どんな用途においても…／不管在哪种用途上…。薬物療法における長処／在药物治疗法上的优点。手術のはじめにおいてのみ…／仅仅在手术开始时…。

⑧〔によって〕 惯用型：体言＋によって（＝により）／根据，由于，用。例如：体温の高さを体温計によって測定する／用体温计测量体温的高低。臨床検査によって診断をつける／根据临床检查下诊断。

⑨〔できている〕 由「できる」的连用形＋ている构成的词组，表示“已经作好”，“已经形成”，“已经出现”等意。例如：ごはんはもうできている／饭已经做好了。ひき臼と全く同じ機構にできている／已经形成与磨完全相同的构造。

⑩〔またがっているのである〕「またがる」是自动词五段活用，其连用形＋ている＋のである，译成：是跨于…的。例如：その機能も双方にまたがっているのである／其机能也是介于二者之间的。

⑪〔たり…たりする〕 惯用型：连用形＋たり…连用形＋たりする／又…又…，或…或…，时…时…。例如：行ったり来たりする／走来走去。土を掘り起したり木の根を除いたりする／又掘土又挖树根。

⑫〔てはならない〕 惯用型：动词连用形＋てはならない／不能，不可。例如：なかんづく発音器官として重要な役割を演じていることを忘れてはならない／尤其不能忘记作为发音器官起着重要的作用。

⑬〔ことができるであろう〕 惯用型：动词连体形＋ことができる／能够，可以。后面再加上「である」的推量法，表示有把握的预测，确信必将如此。因此「ことができるであろう」一般译成：就会，就可以，就能够。例如：歯と発音との関係の深さを知ることができるであろう／就会了解到牙和发音之间关系的密切。

### 第 3 課

#### 口腔疾患の一般病理

口腔の疾患を数多く①眺めていると、第1に氣のつく②ことはその種類が非常に多いということである。遠藤氏は口腔の疾患を310種と記載しているが、現在では更にその数が増していることと思う。第2に氣のつくことは非常に頻度の高い疾患が多いということである。齦蝕、歯肉炎、歯槽膿漏症の如きは恐らく人類の疾患でも頻度の高い点では最も代表的なものであろう③。第3に氣のつくことは発病機序の不明な疾患が多いということである。齦蝕や歯槽膿漏症はもちろんであるが、口腔粘膜や舌に見られるいわゆる症候性あるいは特発性炎症と呼ばれるものは総てこれに属し、いずれもその発病機序はわかっていない。その他、歯肉や骨にくる滲蔓性肥厚にも由来の明らかでないものが少くない。

口腔の疾患が何故にこのような特性を持っているかというに、まず第1に考えられることは、口腔が発生学的に見ても、構造の上から見ても、機能の点から見ても、性質の全く異なった数多くの組織が、寄り集まってできている④生物学的に極めて複雑な総合器官であるという点である。

次に考えられることは、口腔が全身の生物学的機構と特別に密接なつながりを示し、その健否はただちに口腔の症状として表現せられる⑤傾向が強いという点である。

口腔のこのような特殊性は、先天的に無数の病因を自身のうちに蔵する結果となり、また絶えず無数の病因に自身を曝露する機縁となり、ひいては症状の複雑化をきたして多くの疾患の本態を不明ならしめる⑥因子となつていゝものと解することができる。

口腔の疾患がかくの如く⑦多方面の錯綜した病因の下に発生するものとすれば、これに対する解明の方法は、単に個々の疾患についての発病機序を別々に追求するというだけでは不十分であって、これを整理し、分類し、鳥瞰して、そこから帰納して得た結論、いい換えれば⑧総合器官としての全口腔の罹患性を全身との関連において把握する以外に途がないということになる。そうであるとすれば⑨臨床家(特に口腔外科医)がこの点についての充分な認識を持たないかぎり、そこには口腔の個々の疾患に対する正確な診断も、適正な処置もあり得ない⑩はずである⑪。

ここに「<sup>いっばんびようり</sup>一般病理」という<sup>こうもく</sup>項目を<sup>もう</sup>設けて、この<sup>てん</sup>点についての<sup>ひととお</sup>一通りの<sup>かいほう</sup>解説を行う<sup>りゆう</sup>理由が<sup>そん</sup>存するわけである⑫。

## 注 释

①〔数多く〕由名词「数」和形容词「多い」的连用形构成的词组，在句中起一个副词的作用，作连用修饰语（状语）。译成：大量地。

②〔気のつく〕「気がつく」是一个句子，作它后面形式体言「こと」的定语，因而变成了「気のつく」。但意思不变，仍是：发觉。

③〔ものであろう〕体言「もの」译成：者，的，判断助动词「である」的推量法「であろう」译成：恐怕是…吧→乃是，就是。例如：代表的なものであろう／乃是代表者。

④〔寄り集まってできている〕与「生物学的に極めて複雑な」是并列定语，共同修饰后面的「綜合器官」，译成：集聚而成的。

⑤〔表現せられる〕是「表現する」的被动态，等于「表現される」，作「傾向」的定语。

⑥〔しめる〕文语使役助动词，接在动词未然形后面，表示使、令、让、叫等意。例如：生体に薬を作用せしめる／使药物作用于机体。疾患の本態を不明ならしめる因子となっている／成为使疾病的实质不明的因子。

⑦〔かくの如く〕是由「かく」、「の」和「如く」三个词构成的词组，可看成一个副词，等于「このように」，译成：这样地，如此地。

⑧〔いい換えれば〕是「いい換える」的假定法，等于「いい換えると」，译成：换言之，换句话说。

⑨〔そうであるとすれば〕等于「そうであるとする」と，译成：假如是那样的话，如果是这样的话。

⑩〔あり得ない〕惯用型：动词连用形+えない／不能。例如：そんなことはありえない／不可能有那种事。

⑪〔はずである〕惯用型：用言连体形+はずである／（表示根据前面所说的理由，必然产生的结果）应该，一定。例如：…正確な診断も，適正な処置もあり得ないはずである／一定既不可能有正确的诊断，也不可能有什么适当的处置。

⑫〔わけである〕惯用型：用言连体形+わけである／（表示根据一般规律可以判断出来的结果）理所当然，应该，就是说。例如：一通りの解説を行う理由が存するわけである／当然存在着进行概述的理由，应该有理由进行概述。

## 第 4 課

### う し よ ほう 齲 齒 の 予 防

齲齒予防に関しては①、今日迄数多くの研究がなされてきたのであるが、その第1は歯、口の清掃であるとされている。しかし文化の進んでくるとともに②歯口の清掃が完全に多くの人に行われるようになった③にもかかわらず④、齲齒の罹患率はその文化の進展とともに増加している。一方文化の低い原始的生活を営む民族にあっては、齲齒の罹患率の甚だ低率なことはこの間の事情を物語るものである。

このことは吾々のいわゆる文明と呼ばれる生活環境が齲齒の発生に、よりよい⑤影響を与える条件を醸成しつつある⑥ことがうかがえる。すなわち砂糖消費量の増加、加工食品の利用の増加、各種石灰分不足の栄養等、食品の種類、その変遷等また都会生活による生活環境の変遷等が大きな要因をなしているのではないかと考えられる。

いずれにしても⑦今日その予防としては、栄養の強化、とくに歯牙形成期に十分な磷、カルシウム、各種ビタミンの摂取がその個体の齲蝕抵抗に、重大な役割を演ずることがいわれている。

また齲齒にかかりやすい⑧歯牙の形態の補正すなわち食物残渣の停滞しやすい歯牙の深い小窩裂溝を削除または充填し、あるいは歯列の矯正を計ること、または早期に齲蝕を発見して充填する方法がその予防に有効であることは当然である。

その他の方法としては最近弗素が応用されて、弗化物の水溶液を歯牙の表面に塗布して歯牙の珐瑯質の表面の磷酸カルシウムを弗化磷酸カルシウムとして対酸抵抗を得させる方法、あるいは上水道中に弗素を100万分の0.6~1混入して住民に飲用せしめ⑨、歯牙形成期に歯質に弗素を沈着せしめて齲齒予防を計る方法が行われているが、いずれにしてもその疾患を零にすべき程の効果は期待できない。有効の場合でも1/3に減少せしめる⑩程度であるが、ただ上水道をして積極的に特定疾患予防として協力せしめることは上水道の存在意義の拡張として注目すべきことであらう⑪。

### 注 釋

①〔に関しては〕 慣用型：体言+に関して／关于…（加提示助词「は」表示强

调，并作为本句的主题部)。例如：齲齒予防に関しては／关于齲齒預防。これに関して少し述べよう／关于这一点略加叙述。

②〔とともに〕 惯用型：体言・用言终止形+とともに／与…同时，与…一同，随着…。例如：白血球数は炎症の進行とともに増加する／白血球数随着炎症的进展而增加。文化の進んでくるとともに／随着文化的进展。

③〔ようになった〕 是「ようになる」的过去时，接在用言连体形后面，表示情况转变的过程，如从前不会现在会了。因此通常译成：现在已经。例如：日本語の医学雑誌が読めるようになった／现在已经能读医学杂志了。歯口の清掃が完全に多くの人に行われるようになった／大多数人现在已经完全能够做到口齿清洁了。

④〔にもかかわらず〕 惯用型：体言・用言连体形+にもかかわらず／尽管…，虽然…。例如：病気にもかかわらず…／尽管患病…。かれは入院したにもかかわらず…／他虽然住了院…。

⑤〔よりよい〕 此处「より」是副词，译成：更。例如：よりよい影響／更好的影响。より早く実現する／更快地实现。

⑥〔つつある〕 惯用型：动词连用形+つつある／正在…，…着。例如：ハリ麻酔の応用範囲は日に日に拡がりつつある／针麻的应用正在日益扩大。

⑦〔いずれにしても〕 惯用型：いずれにしても／反正，总之。例如：いずれにしても治療効果は同じである／总之，治疗效果是一样的。

⑧〔かかりやすい〕 合成词：动词连用形+やすい〔易い〕／易于…的。例如：かかりやすい／易患…的。齲齒にかかりやすい／易患齲齒的。停滞しやすい／易停滞的。

⑨〔飲用せしめ〕 是サ变动词「飲用する」的使役态连用形中顿法。构成：「飲用する」的未然形「飲用せ」+使役助动词「しめる」→飲用せしめる／使…饮用。例如：上水道中に弗素を100万分の0.6～1混入して住民に飲用せしめる／将万分之0.6—1的氟混入上水道使居民饮用。

⑩〔1/3に減少せしめる〕 如上条注释，「減少せしめる」是「減少する」的使役态，在本句中是连体形，作「程度」的定语。在阅读过程中，遇到数量的增减时，要特别注意数词的后面有无助词「に」，因为只差一个助词「に」意思大不一样。如果有「に」则表示增减后的结果，译成「到」字，如果没有「に」则表示纯增减的数量，通常译成「了」字或不译。例如：1/3に減少せしめる／使之减少到三分之一。1/3減少せしめる／使之减少了三分之一。

⑪〔注目すべきことであろう〕 惯用型：动词终止形+べき（こと）である／应该，值得。其中「ことであろう」是「ことである」的推量法，此处表示一种含蓄语气。译成：恐怕是值得注视的吧→值得注视。

## 第 5 課

### う しよく 齧 蝕 (一)

齧蝕①というのは、歯の硬組織を侵す一種の破壊性病変であって、現代文化民族の間では、最も普遍度の高い疾患である。

齧蝕は口腔微生物のうちの酸産生菌が、食物中の含水炭素を酸酵させて乳酸とし、この乳酸が歯質から石灰塩類を溶出させる一方②、おなじく口腔微生物のうちの蛋白質分解酵素を出す細菌によって、歯質の中の有機成分が溶解せられる結果、起ってくる疾患と考えられているが、その際、果して③如何なる種類の微生物が病因的意義を持つものか、また局所の化学的変化がどの様に進むものか等の詳細については、今日なお充分明らかになっていない。従って、齧蝕の本態、原因、対策等に関しても全世界の学者が数世紀に亘る④努力を傾けているにもかかわらず、未だ満足すべき結論に達していないのが現状である。

齧蝕はそれ自身⑤に関する限りでは、何等重大な疾患ではないが、齧蝕に继发する各種の疾患、ことにいわゆる「歯性炎症」と呼ばれる顎部の化膿性炎症に於ては、齧蝕が最も有力な根源をなすという点に於て、口腔外科臨床の上では頗る意味の大きい疾患である。

齧蝕は最初歯の表面を被っているエナメル質に始まるのが普通であるが、それがどこにでも現われるというのではなく、一定の好発部位がある。好発部位の主なる場所は咬合面の裂溝、隣接面および歯頸部の3ヶ所⑥で、いずれも⑦咀嚼に際して⑧食物の擦過の及ばない部位である。これらの部位はいわゆる歯垢の沈着が起り易い場所に相当している。歯垢というのは、微生物を主体として食物残渣、粘液、剝離上皮等から出来ている一種の菌蓋⑨である。なお齧蝕は歯根が露出した場合にはセメント質から始まることもある。エナメル質に始まる齧蝕もセメント質に始まる齧蝕も病変はやがて⑩内層の象牙質に及び⑪、これを破壊しながら⑫、さらに深部へ進行して、結局歯髓腔にまで達する⑬ものである。

### 注 釋

①〔齧蝕〕 汉语的齧齿或蛀齿，在日语医学书刊里，通常有4种表达方法：「齧蝕」，

「<sup>うしよく</sup>齲蝕」, 「<sup>うしよくしょう</sup>齲蝕症」, 「<sup>むしば</sup>虫歯」。但有时也直接用英语dental caries表达。

②「一方」 该名词经常作为形式体言接在动词连体形后,起接续助词的作用,把两个句子连接起来,译成:…这是一方面,另一方面…。或只译成:另一方面(放在后一句的开头)。例如:…石灰塩類を溶出させる一方,おなじく…/…使石灰盐类溶出,另一方面同样…。

③「果して」 该副词表示果然、果真、究竟、到底等意。例如:果して如何なる種類の微生物が病因的意義を持つものか? /到底是哪一种微生物具有病因意义?

④「に亘る」 惯用型:体言+にわたる+体言/(表示时间的连续性)连续…的。例如:数世紀に亘る努力/连续数世纪的努力。经过数世纪的努力。

⑤「それ自身」 「それ」代替前面出现的名词,「自身」即本身之意。因此译成:其本身。例如:齲蝕はそれ自身に関する限りでは…/只就齲齿其本身来说…。

⑥「三ヶ所」 译成:三个地方,三处。日语片假名「ヶ」「カ」「コ」接在数词后面时均表示汉语的“个”字。

⑦「いずれも」 该副词译成:(无论哪一个)都。词义相当于「どれも」「みな」。

⑧「に際して」 惯用型:体言+用言连体形+に際して/当…时,正当…之际。例如:咀嚼に際して/咀嚼时。

⑨「菌蓋」 细菌性覆盖物。

⑩「やがて」 该副词修饰「及び」译成:不久,很快。

⑪「に及び」 是五段动词「及ぶ」的连用形中顿法,表示波及之意。例如:象牙質に及ぶ/波及到象牙质。

⑫「破壊しながら」 接续助词「ながら」接在动词连用形后,连接两个同时发生的动作,译成:边…,边…,一面…,一面…。例如:破壊しながら…/边破坏,边…。歩きながら話す/边走边说。

⑬「にまで達する」 サ变自动词「達する」(=いたる)表示达到意义时,往往要求格助词「に」,「に」后再加助词「まで」表示加强语气。因此,「にまで達する」译成:直到。例如:結局歯髓腔にまで達する/结果直到齿髓腔。

## 第 6 課

### 齲 蝕 (二)

このように<sup>うしよく</sup>齲蝕の発生には①, まず<sup>しとう</sup>歯垢の<sup>らんちやく</sup>沈着することが<sup>ぜんていじようけん</sup>前提条件となってい